

記憶の甦生

—「食」でつながるエコミュージアム—

エコミュージアムとは・・・

エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）とをつなぎ合わせた造語。
ある一定の地域で受け継がれてきた自然や文化、生活様式を含めた環境を総体として
研究・保存・展示・活用していく施設である。
展示資料の現地保存や住民が運営に参加することにより地域を見直し、その発展を
目指すことに特徴がある。

遠くに見える煙突に
見守られながら 戯れる
生命力を得た心身は 解き放たれ
すこやかな緑と なつかしい煉瓦色に染まる
忘れかけていた かつての記憶が甦る——

SUMMARY

CONCEPT

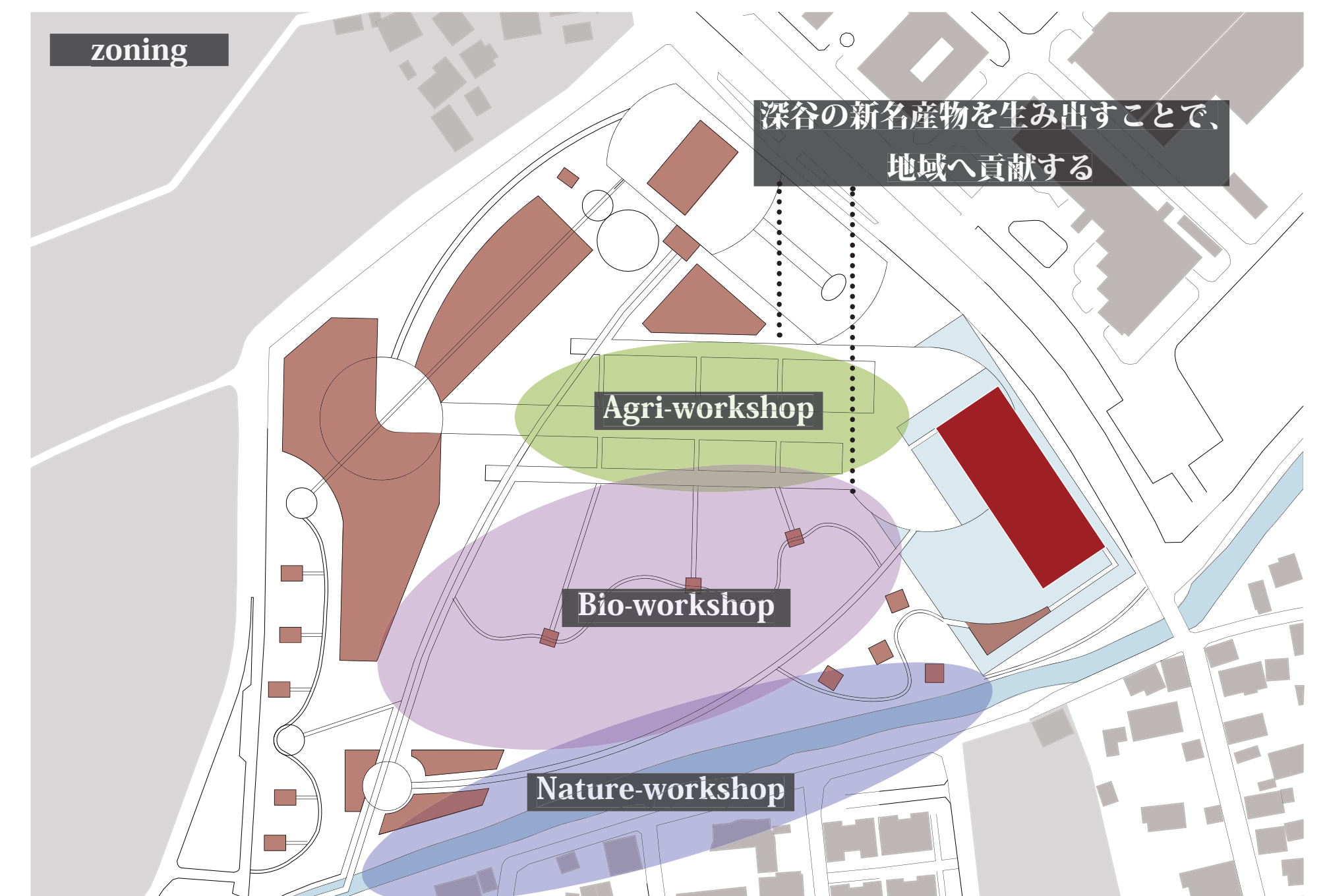
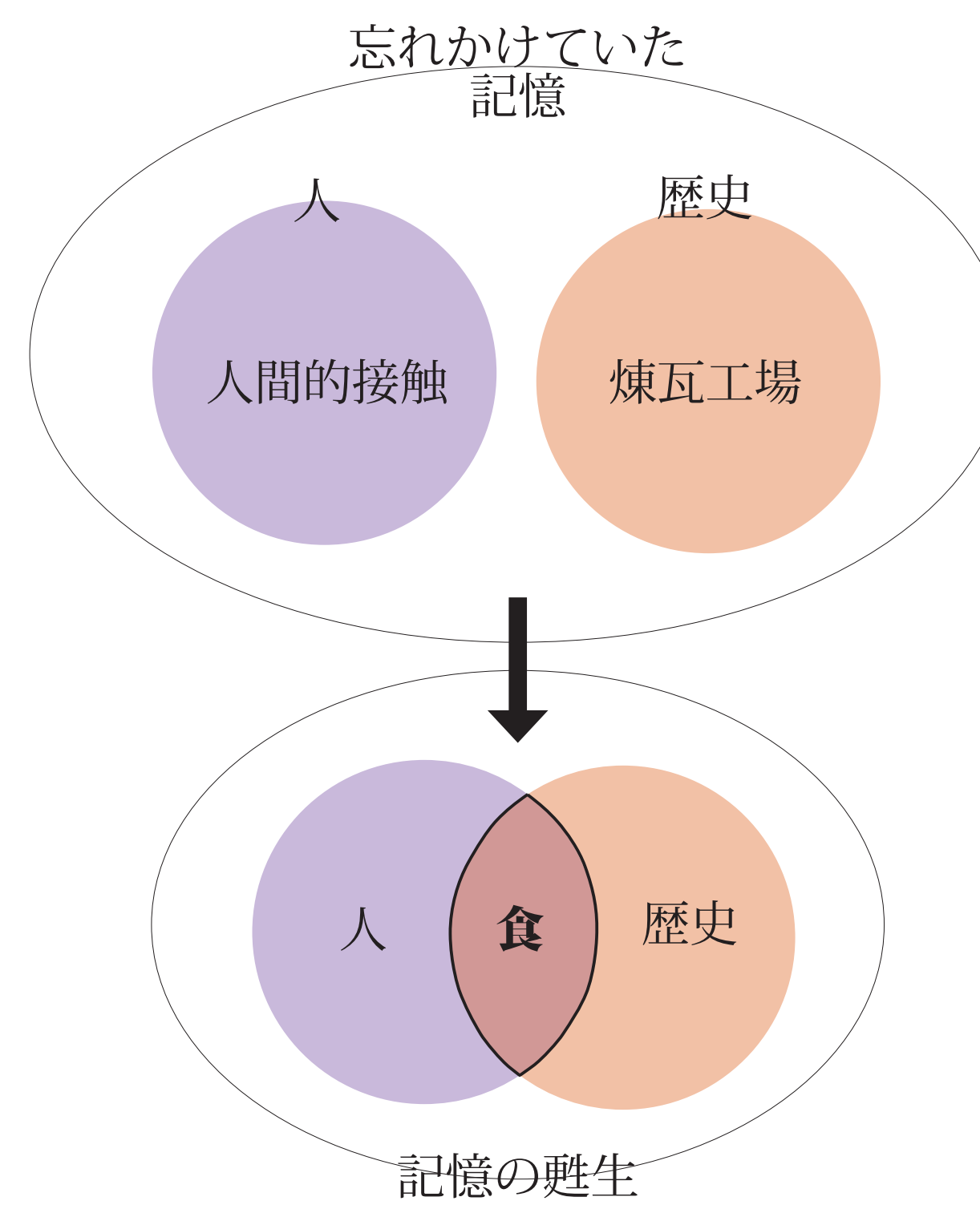
煉瓦工場の跡地に、宿泊型研修体験施設を提案する。

ここでは、葛藤する情報社会で希薄になった人と人との直接のコミュニケーションをとりもどし、心身の健康を促進させる場を創造するとともに、煉瓦で栄えた町の記憶を再生する。

KEYWORD

「食」—それは生きていく上で必要不可欠で身近な存在である。

古くから農業が盛んな深谷を象徴する要素として、農地の田園風景は重要である。そこで計画地にも農・牧養地を組み込み、アグリ・バイオワークショップの場として「食」に対する意識を高めることで、人と町の歴史がつながる。

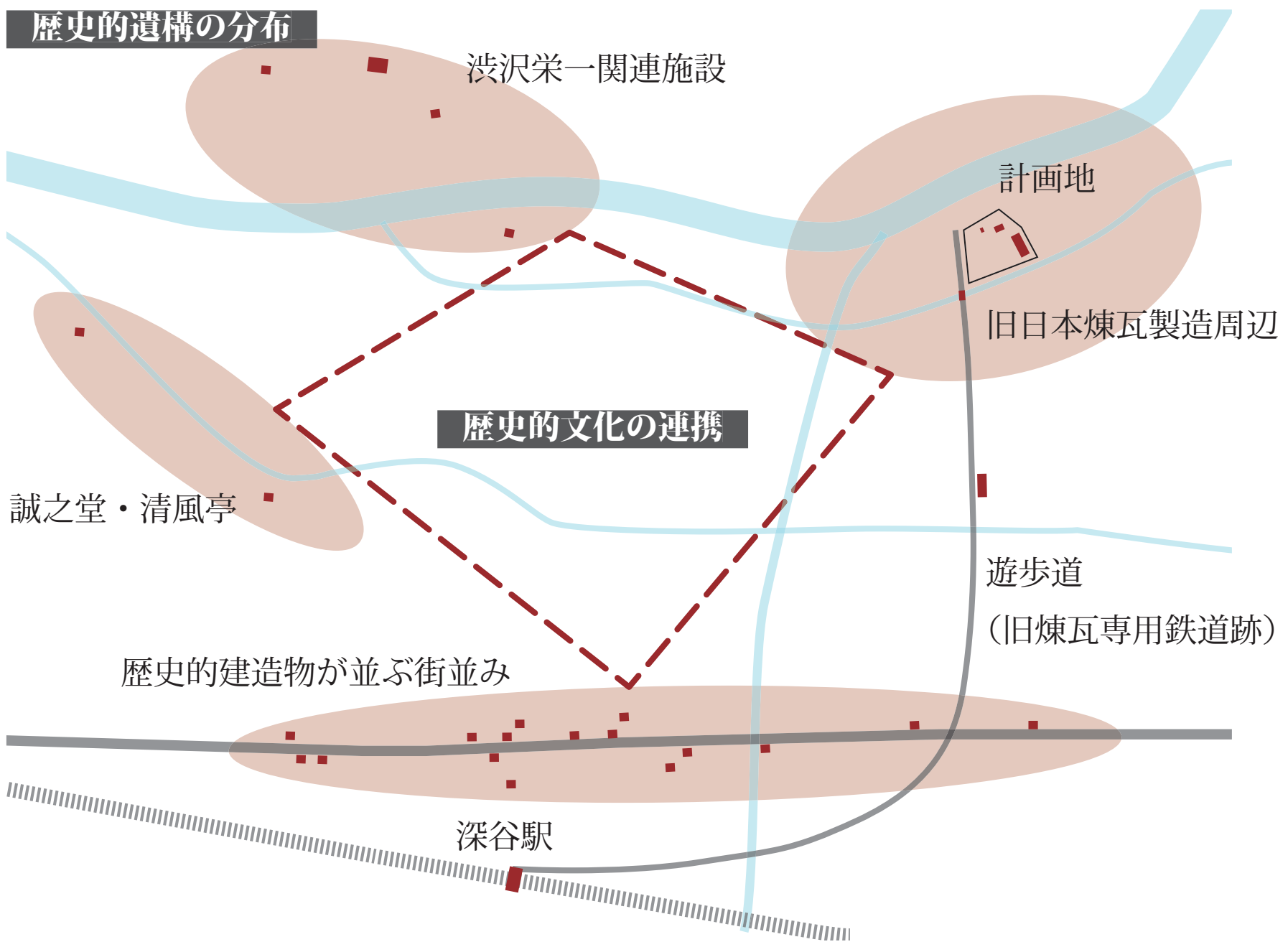


CONTEXT

SITE @ FUKAYA_BRICKTOWN

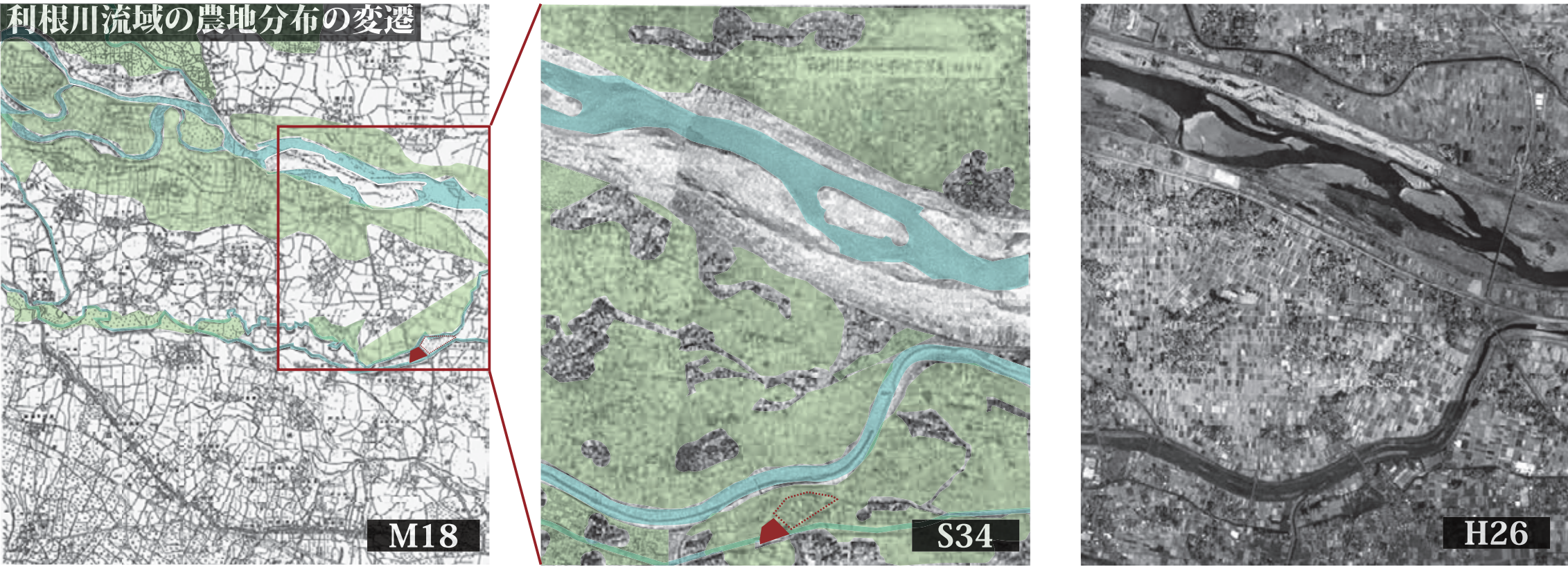


埼玉県深谷市
深谷ねぎの生産地で知られる。またかつては煉瓦の町として栄え、多くの煉瓦造遺構が残る。
計画地は駅から北へ 4km の地点にある（株）日本煉瓦製造の工場跡地である。敷地面積約 50000㎡



AGRICULTURE & GEOLOGY

深谷で農作物の栽培が盛んな理由は、深谷北部に流れる利根川によって運ばれた肥沃な土壌が広大な地域にまたがっているからである。
代表作物である深谷ねぎの生産は利根川流域で明治時代に始まり、特に利根川右岸に広がる妻沼低地は肥沃な沖積地で耕土が深く、さらに冬の日照期間が長くじっくり生長するため、地質・地形・気候面でねぎ栽培に適している。土壌は排水性がよく硬質である。
また、ケイ素を踏んだ硬い土壌を使って瓦製造も盛んであった。
江戸後期～明治 40 年代 藍、桑、養蚕業
明治 30 年頃～ ねぎ

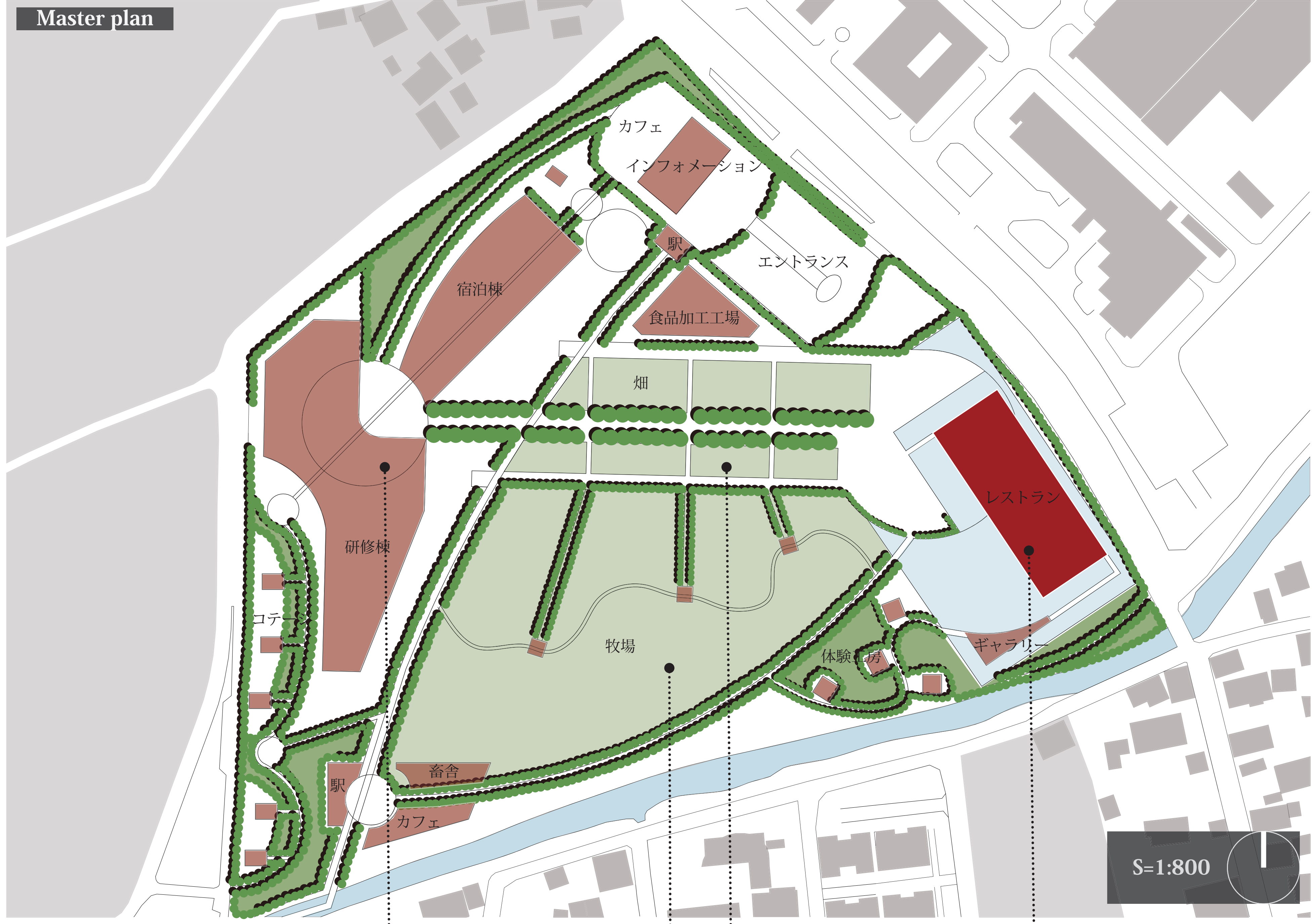
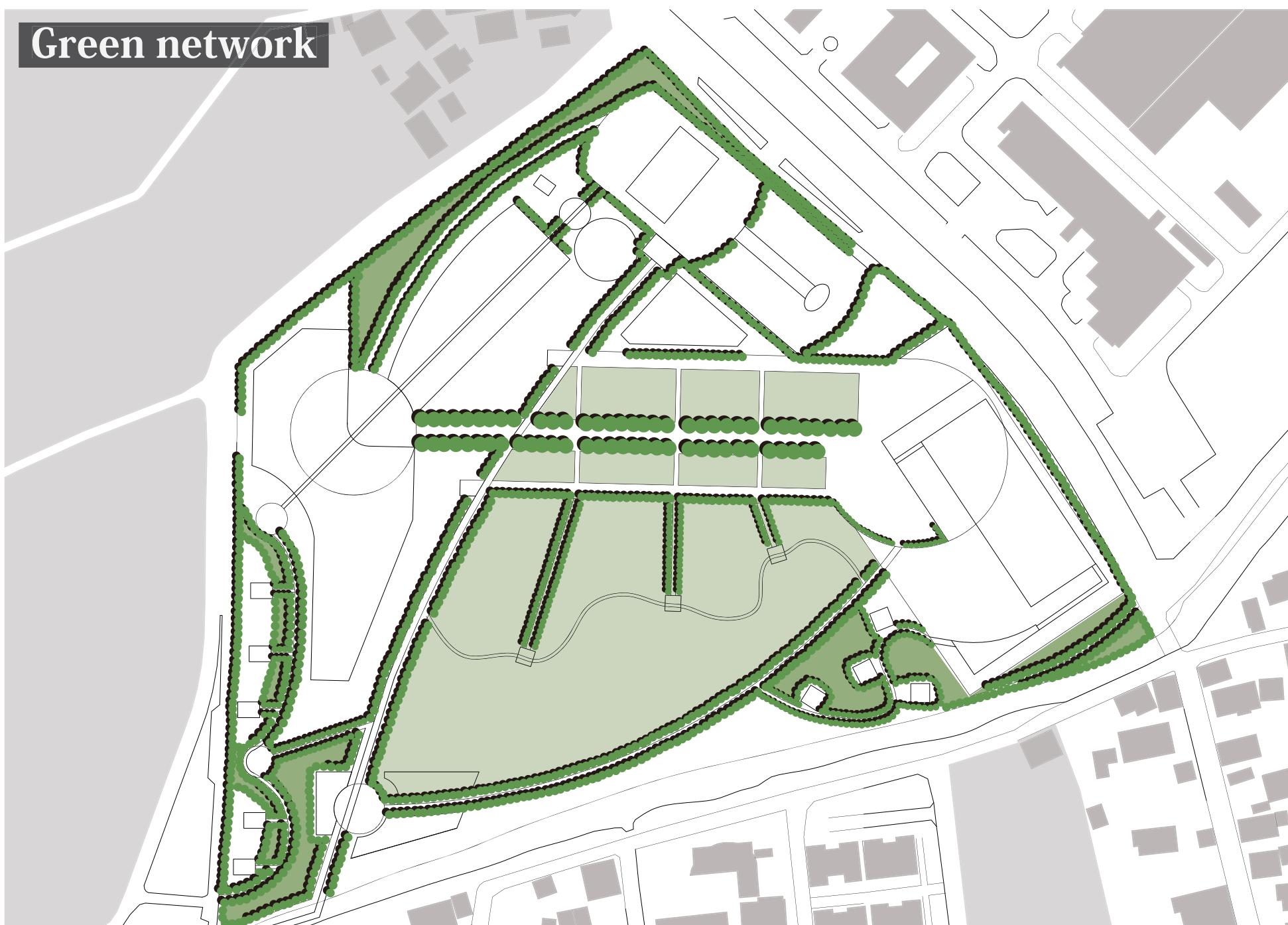
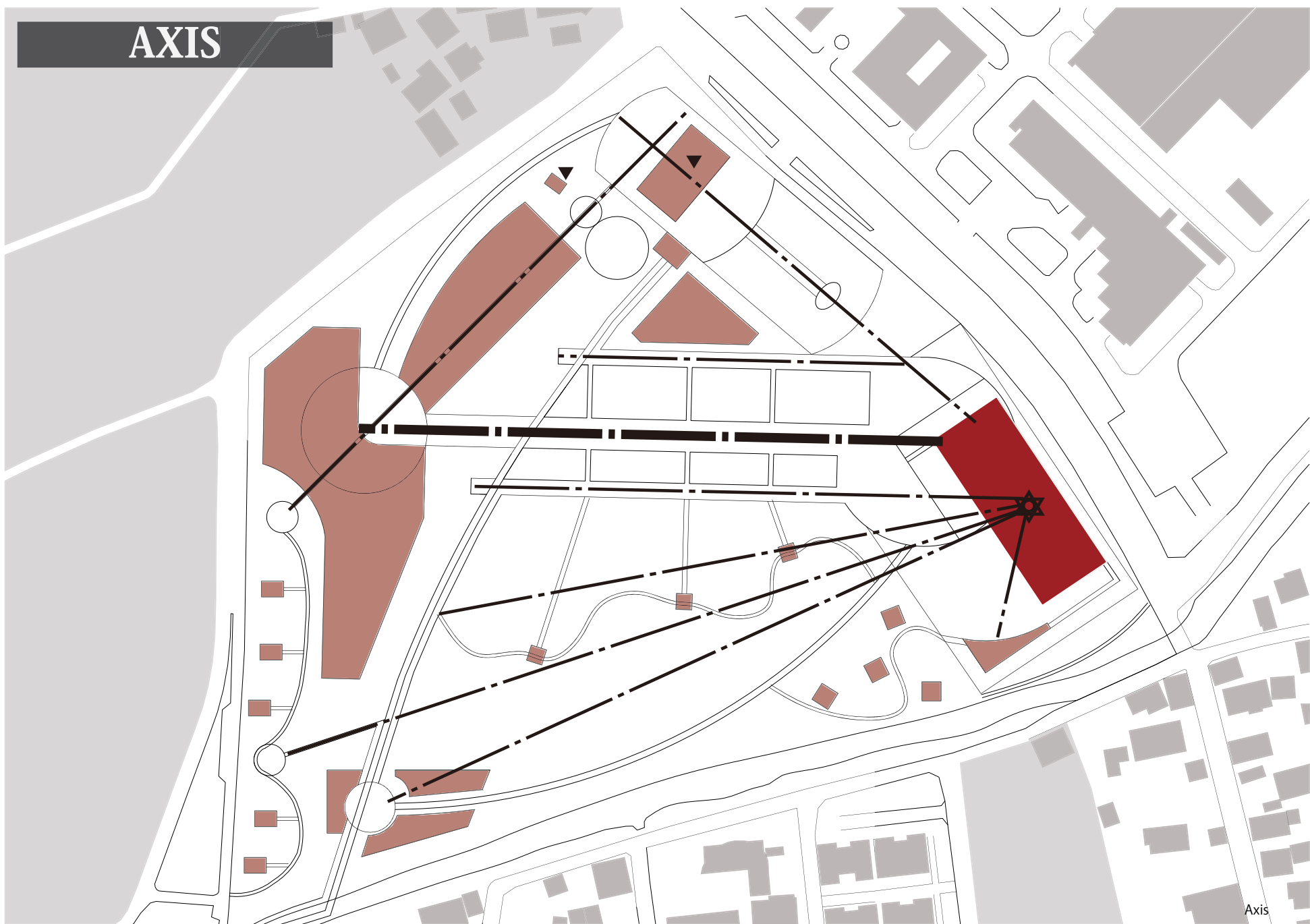
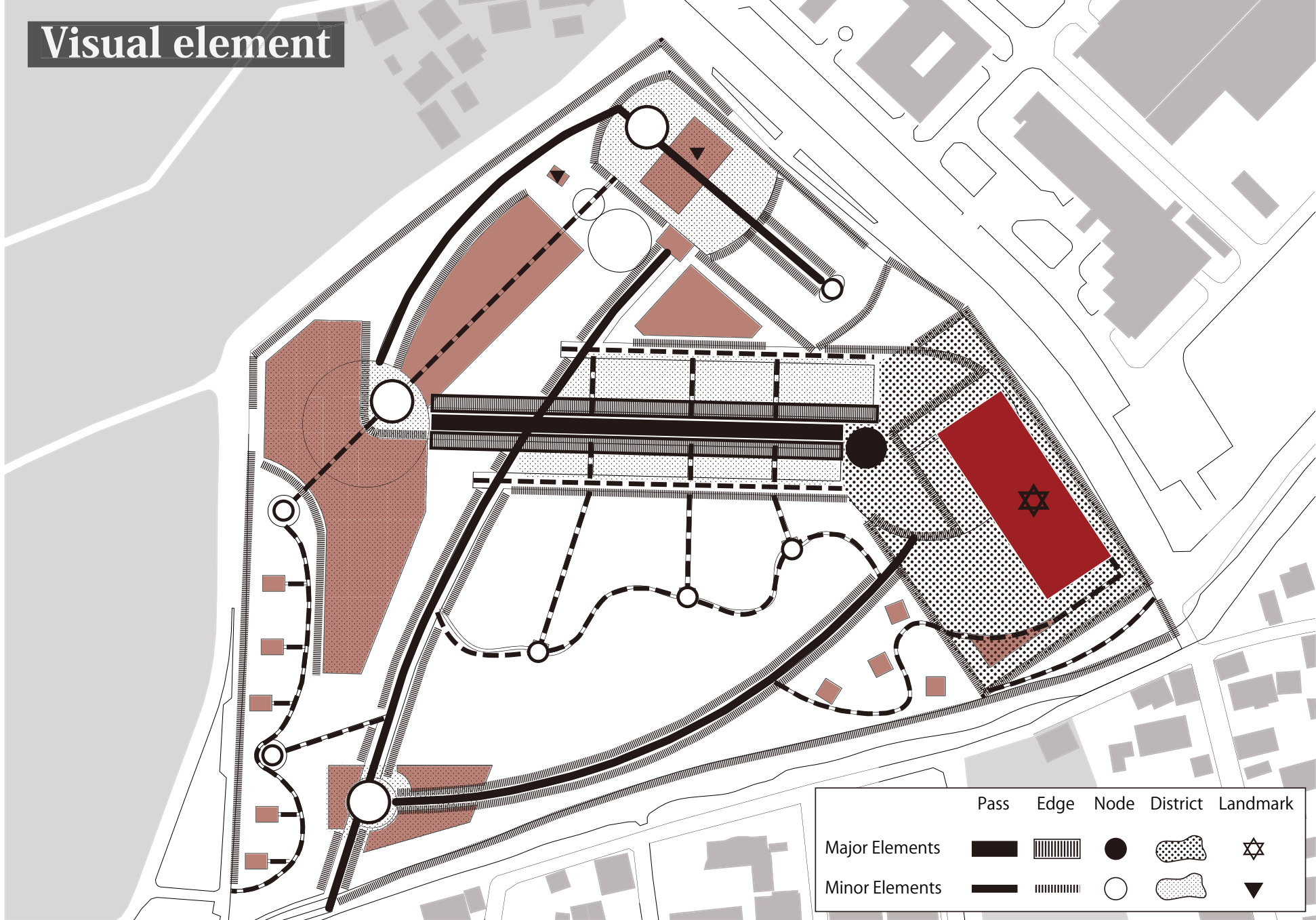


HISTORY_Brick factory

実業家・渋沢栄一は郷里である利根川流域一帯の肥沃な土壌が煉瓦製造の適地であることを見抜き、日本最初の機械式煉瓦製造を行う（株）日本煉瓦製造会社を深谷市上敷免に設立した。	1887	渋沢栄一らにより会社設立
渋沢は煉瓦の原土に関して、畑地の床下げを行い水田とすることで、米作に不適であった農地が良田となって農民の生活を豊かにし、また冬場、作物が育たない時期は農民を煉瓦工場で雇い入れるなどし、地元にとって有益であるということから、原土代を無代にするよう嘆願し、実現した。	1907	ホフマン輪窯第六号窯完成
	1918	第一次世界大戦終結
	1945	第二次世界大戦終戦
	1978	ホフマン輪窯六号窯 深谷市有形文化財に指定
	1980	ホフマン輪窯六号窯、木造洋館および所蔵資料 深谷市有形文化財に指定
	1997	ホフマン輪窯六号窯、旧事務所（日本煉瓦史料館）、旧変電室、備前渠鉄橋 国指定重要文化財に指定
	2006	廃業



DIAGRAM Master plan



研修棟で食に関するセミナーが開かれる



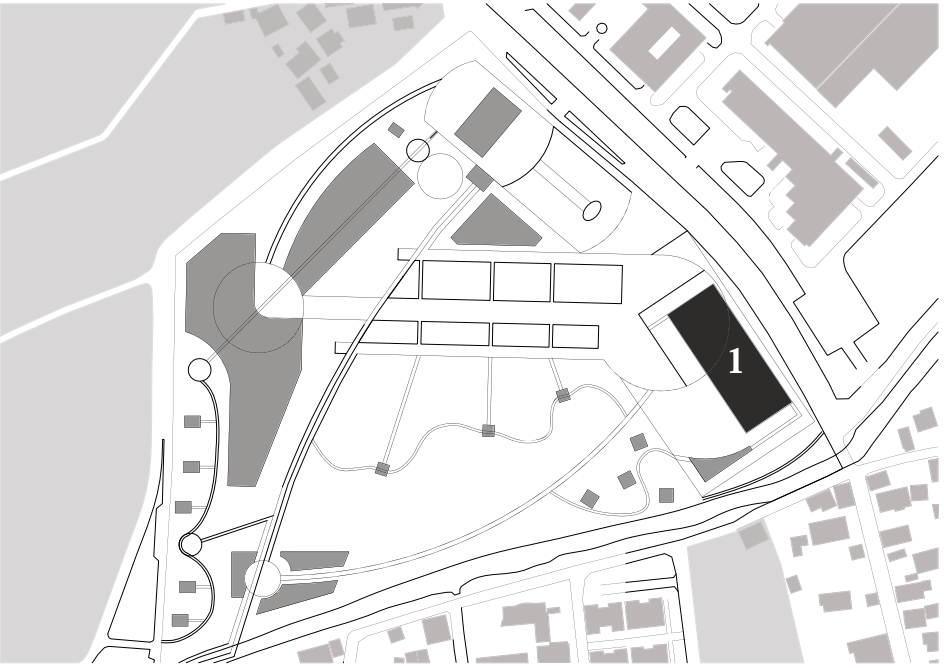
農業体験でコミュニケーションを促進する



煉瓦造のホフマンレストランで歴史を感じながら食を味わう

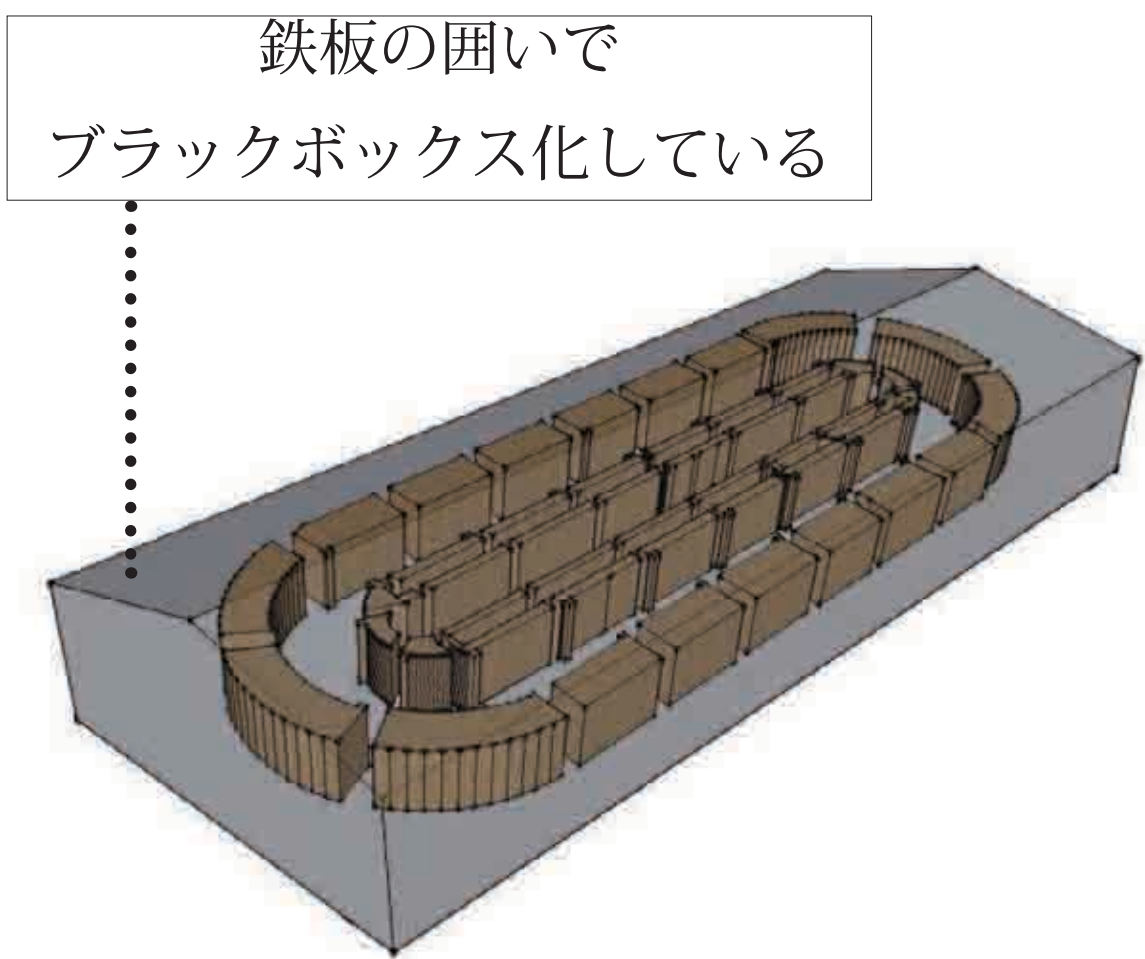
DIAGRAM & PLAN_Hoffman

重要文化財であるホフマン輪窯 6 号窯をレストラン、歴史資料館としてコンバージョンする。
囲いで閉じられていた窯をガラスのファサードで可視化することで、より象徴的な印象を与える。
特徴的な平断面を活かして窯の内部を客席とし、煉瓦をより身近にそして歴史を感じながら食を味わう。
煉瓦と人が「食」によってひとつになる空間である。

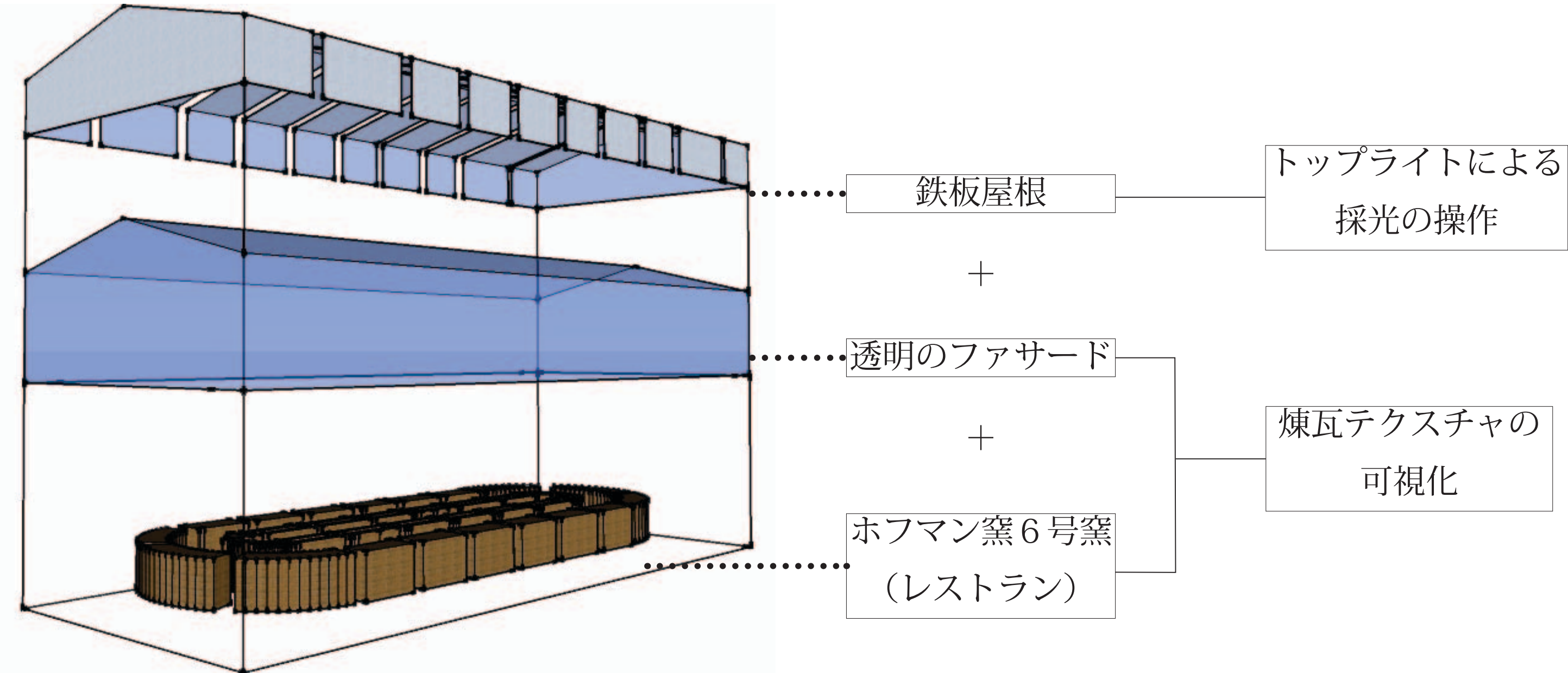


Form diagram 1

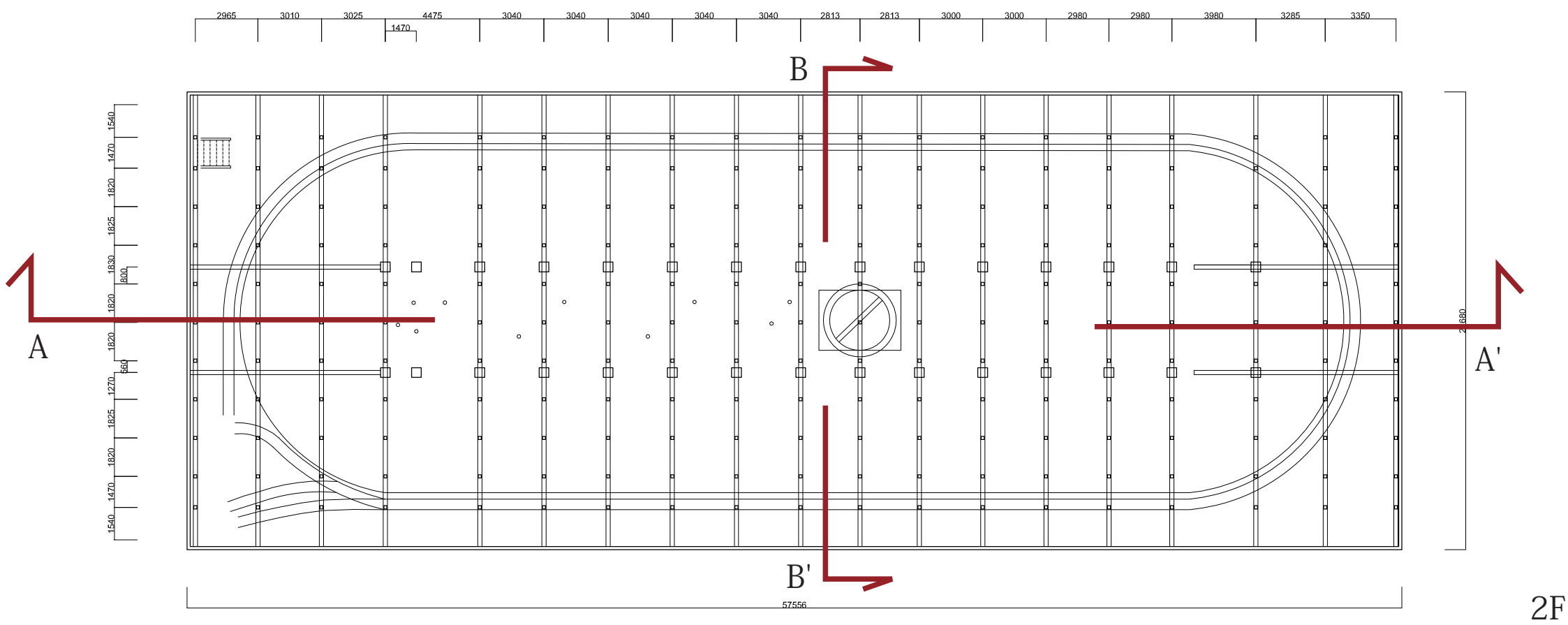
●既存の外観



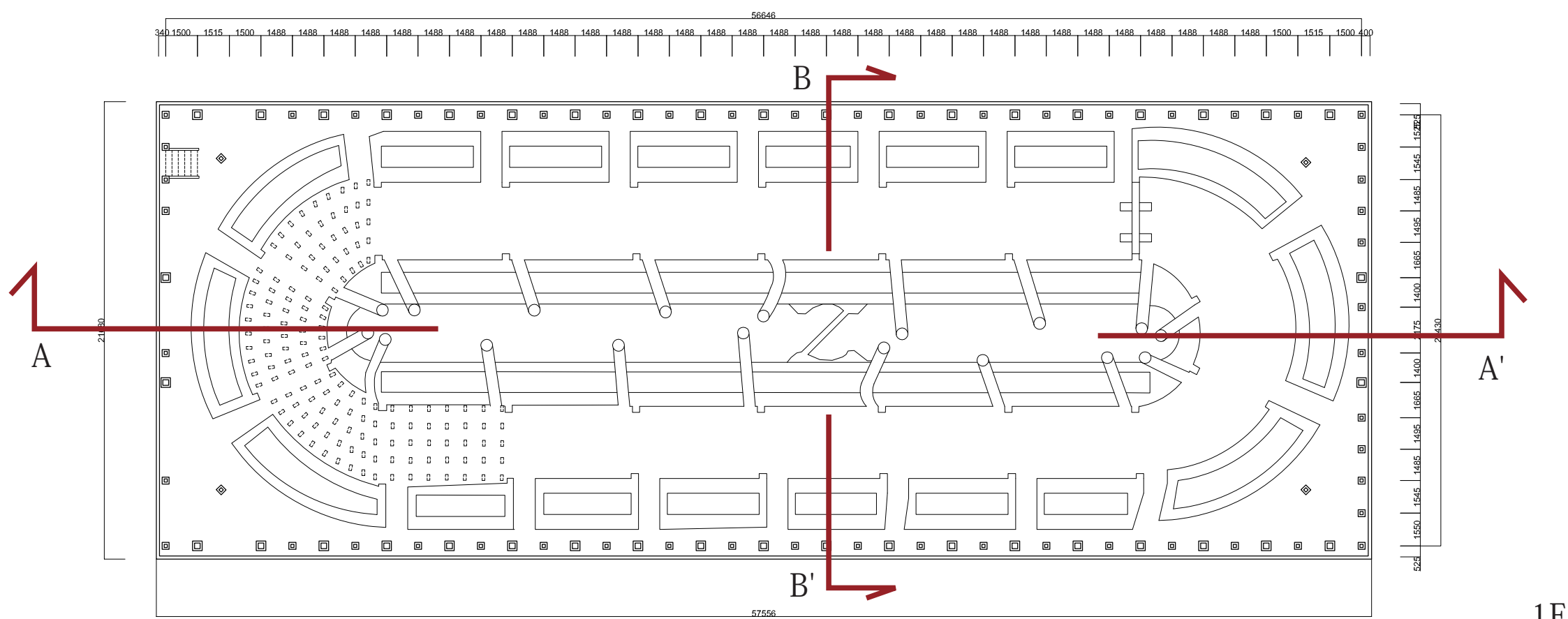
●新しい外観



コンバージョン前 (1F 煉瓦窯 2F 投炭室)

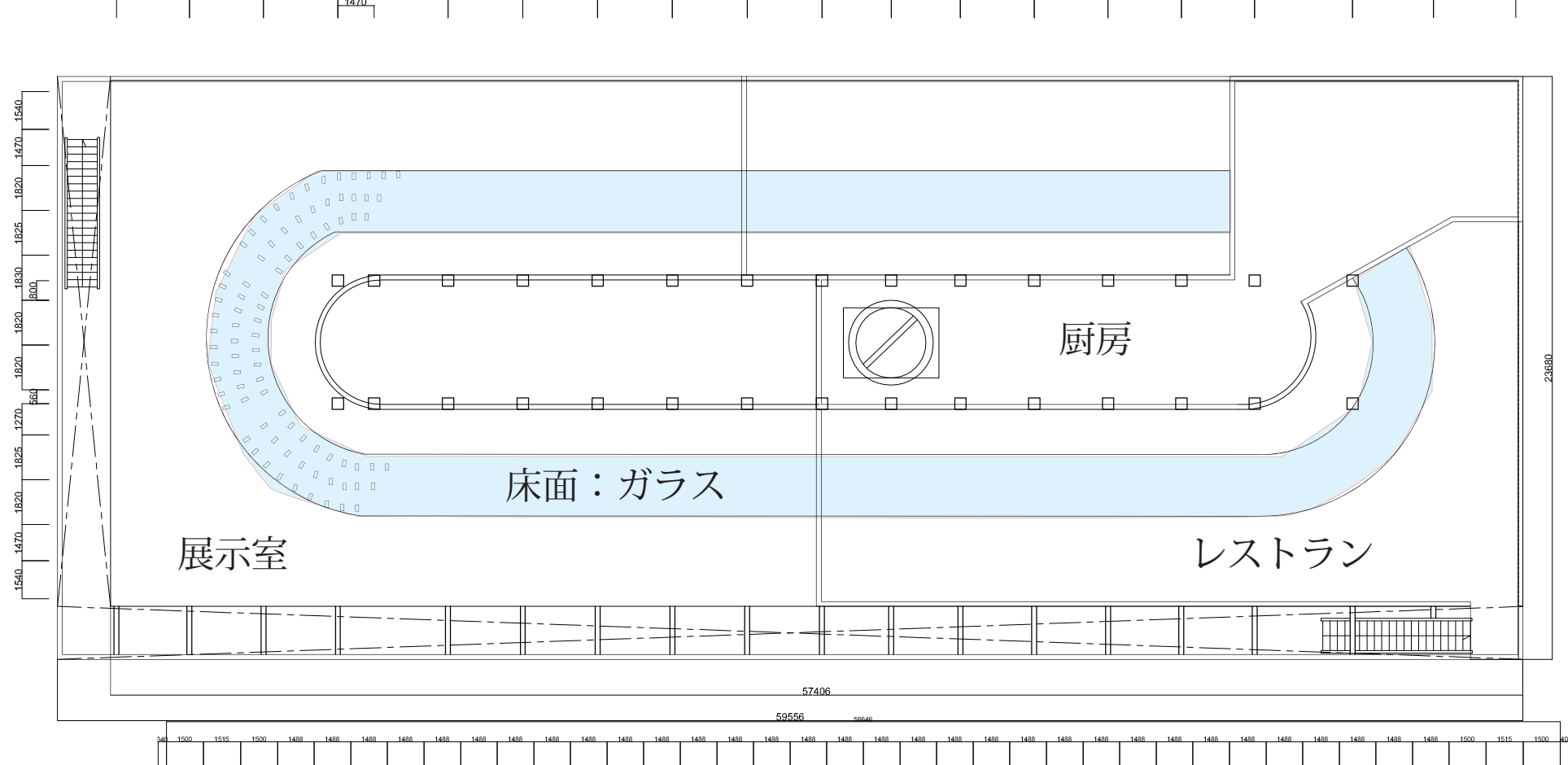


2F

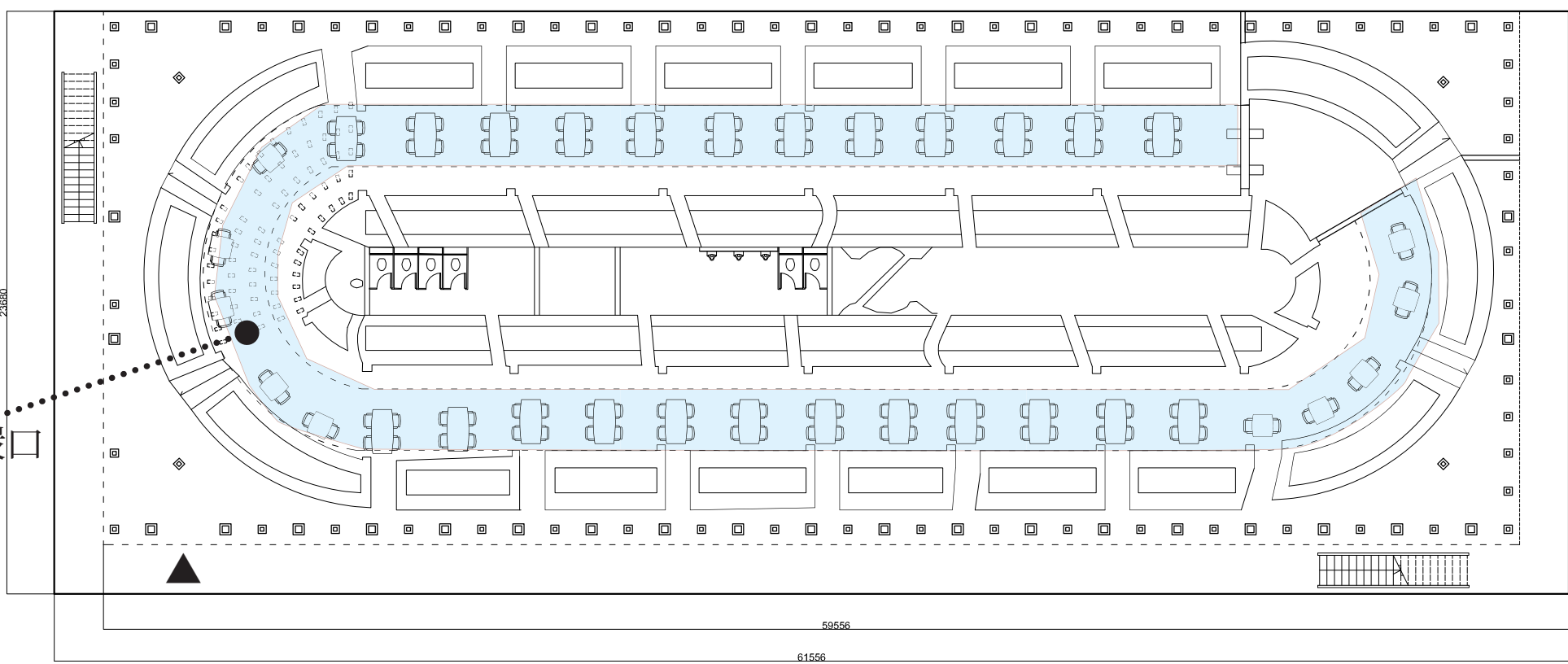


1F

コンバージョン後 (1F レストラン 2F 歴史資料館)



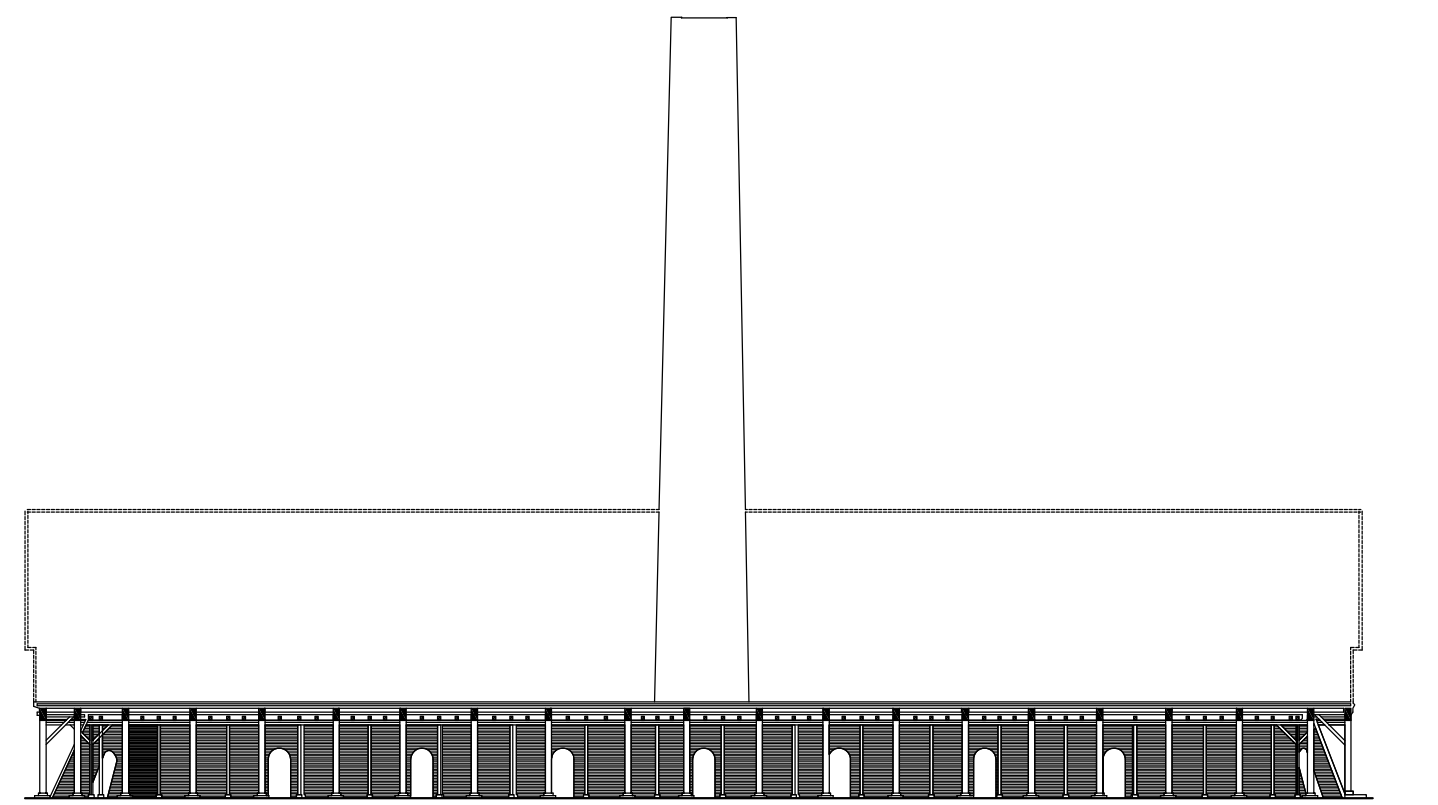
上部：既存投炭口



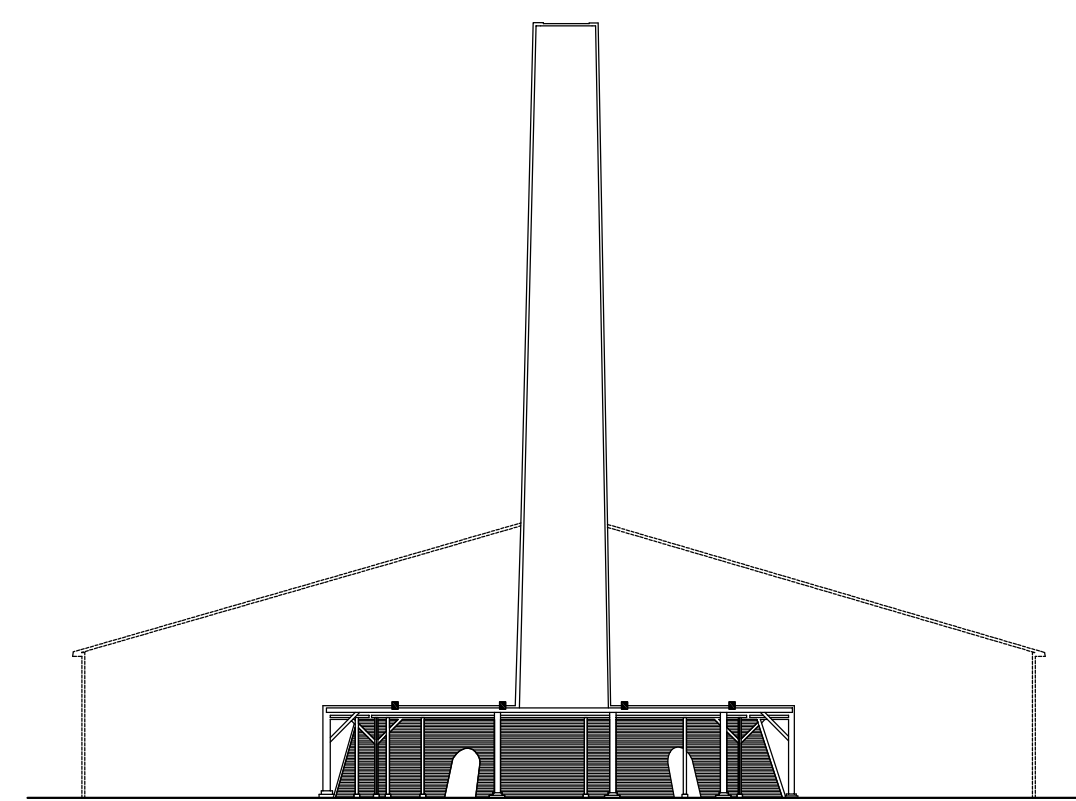
1:500
1:1000
1:1500
1:2000
1:2500
1:3000
1:3500
1:4000
1:4500
1:5000
1:5500
1:6000
1:6500
1:7000
1:7500
1:8000
1:8500
1:9000
1:9500
1:10000



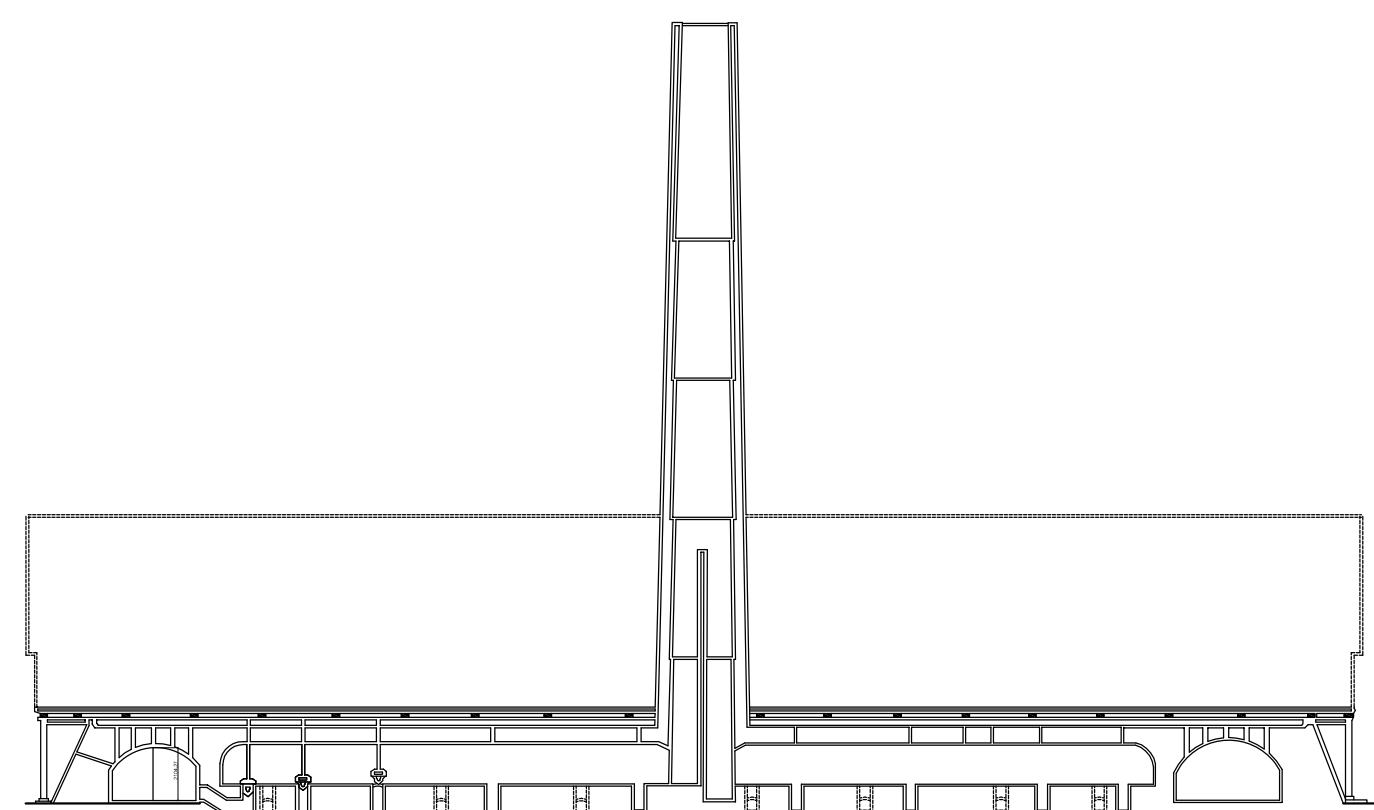
コンバージョン前



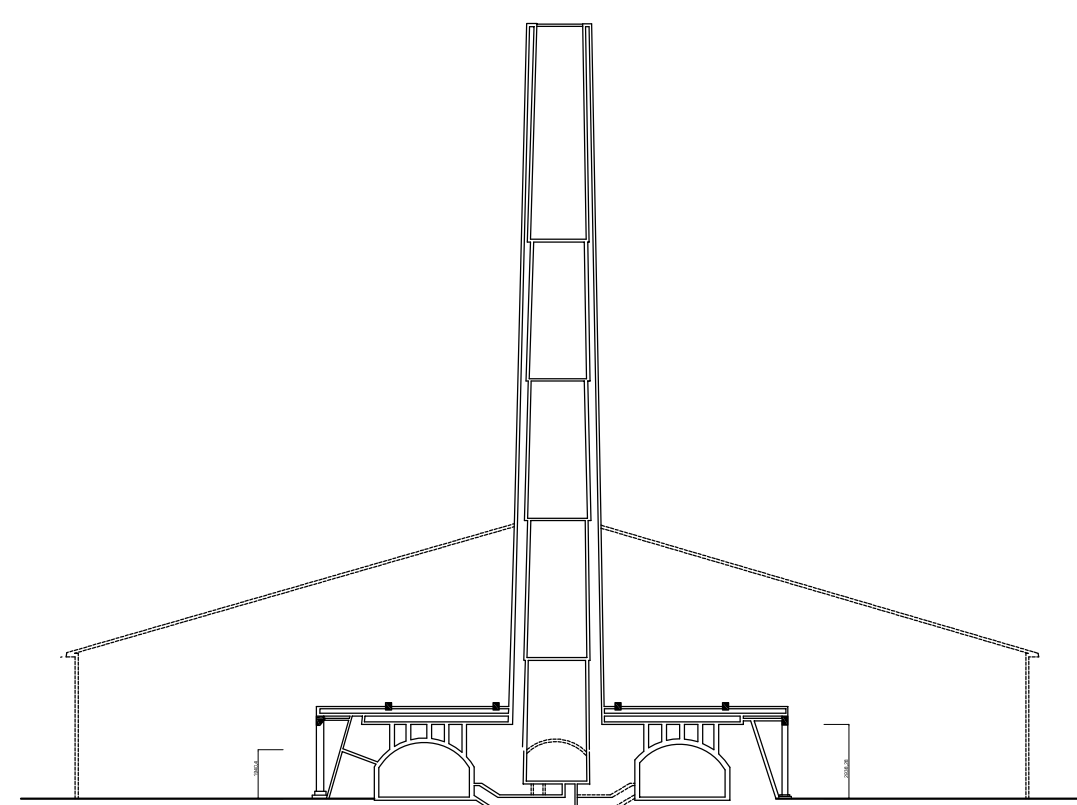
West Elevation S=1/300



North Elevation S=1/300



A-A' Section S=1/300



B-B' Section S=1/300

コンバージョン後

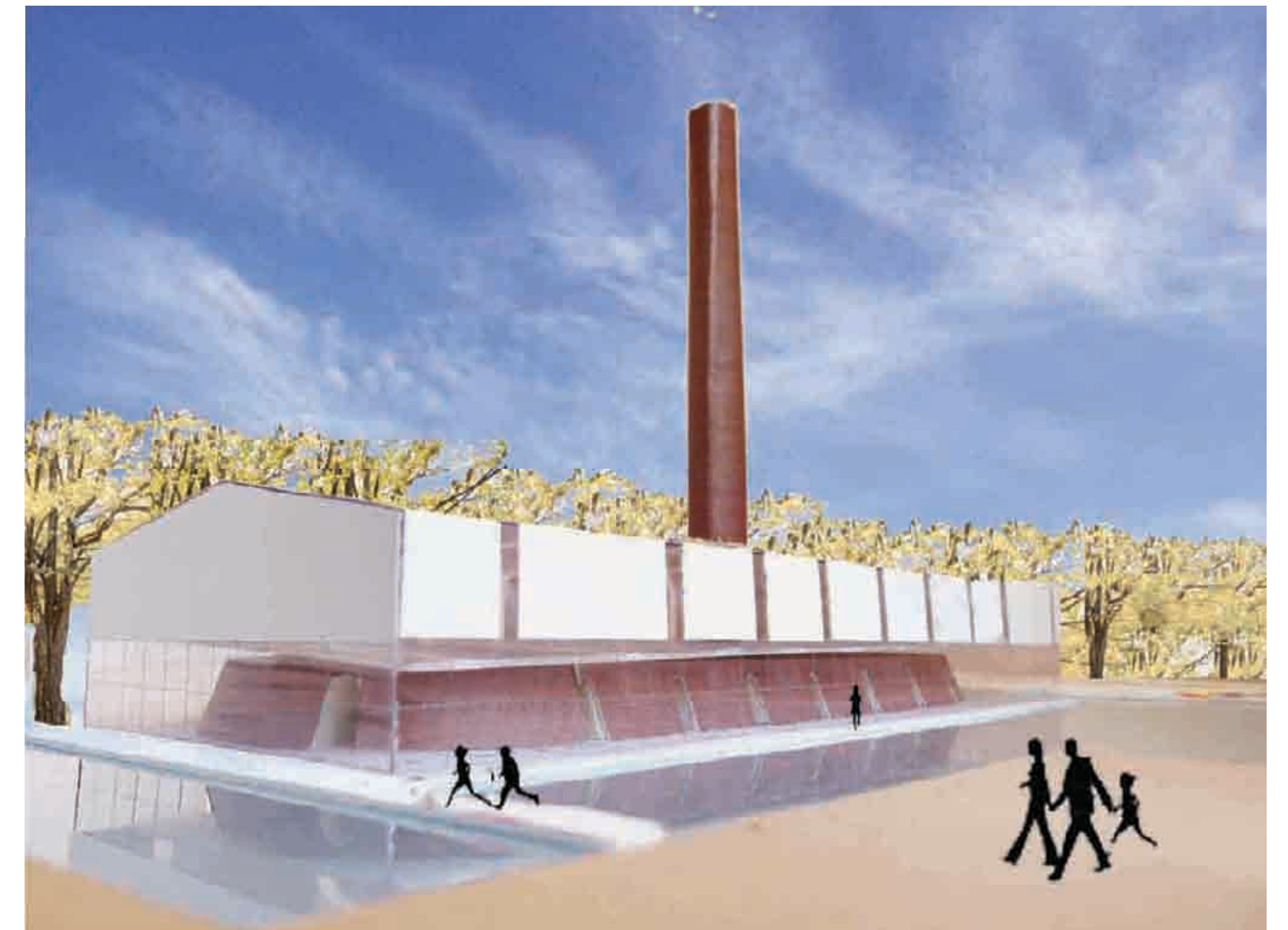
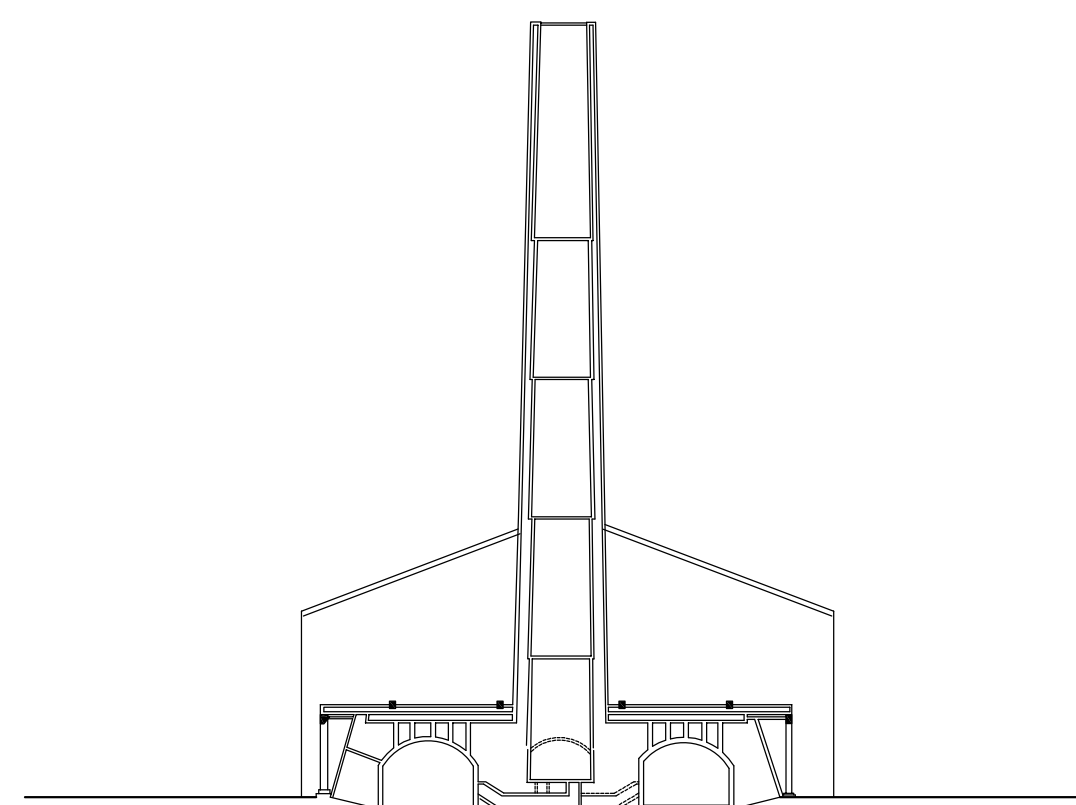
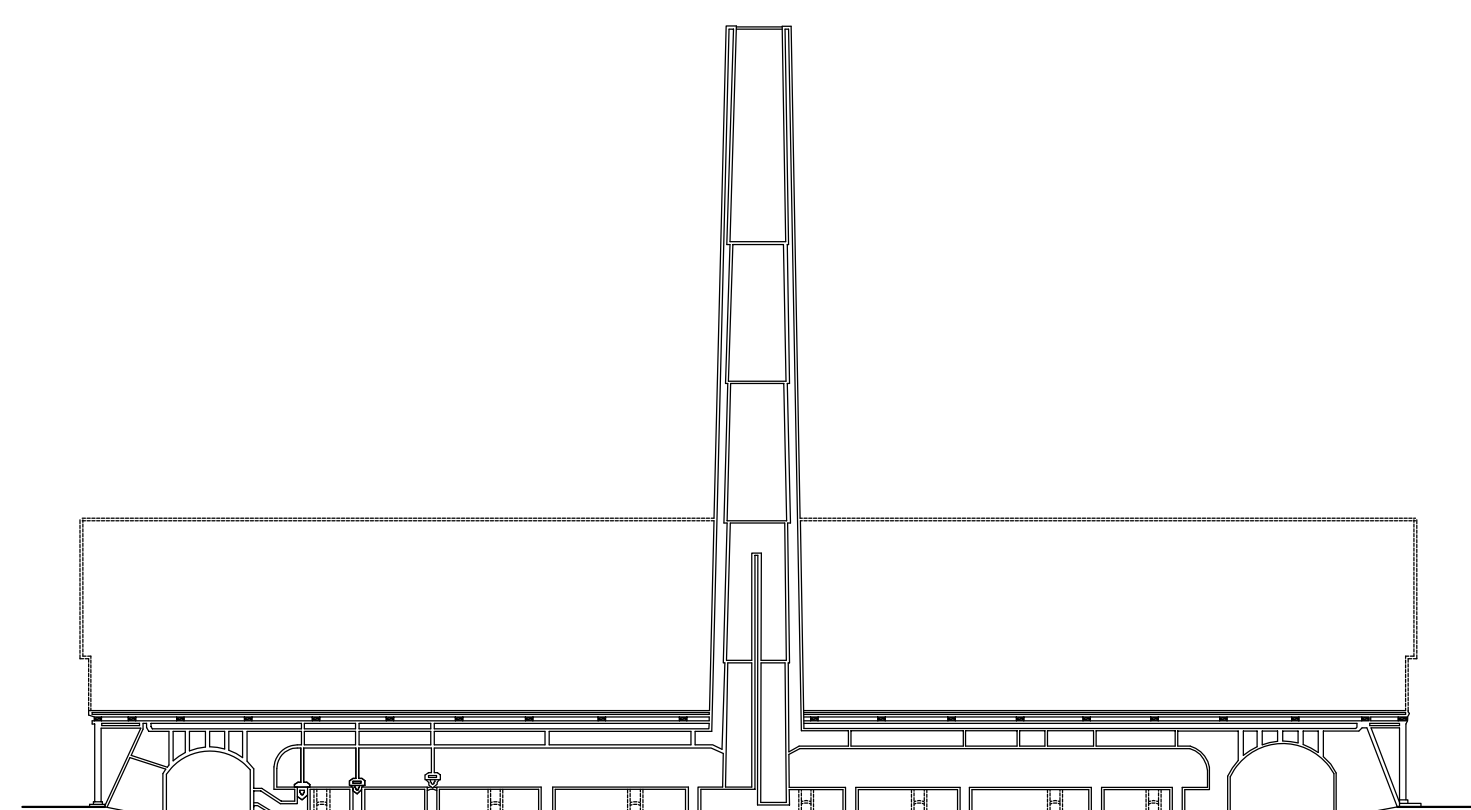
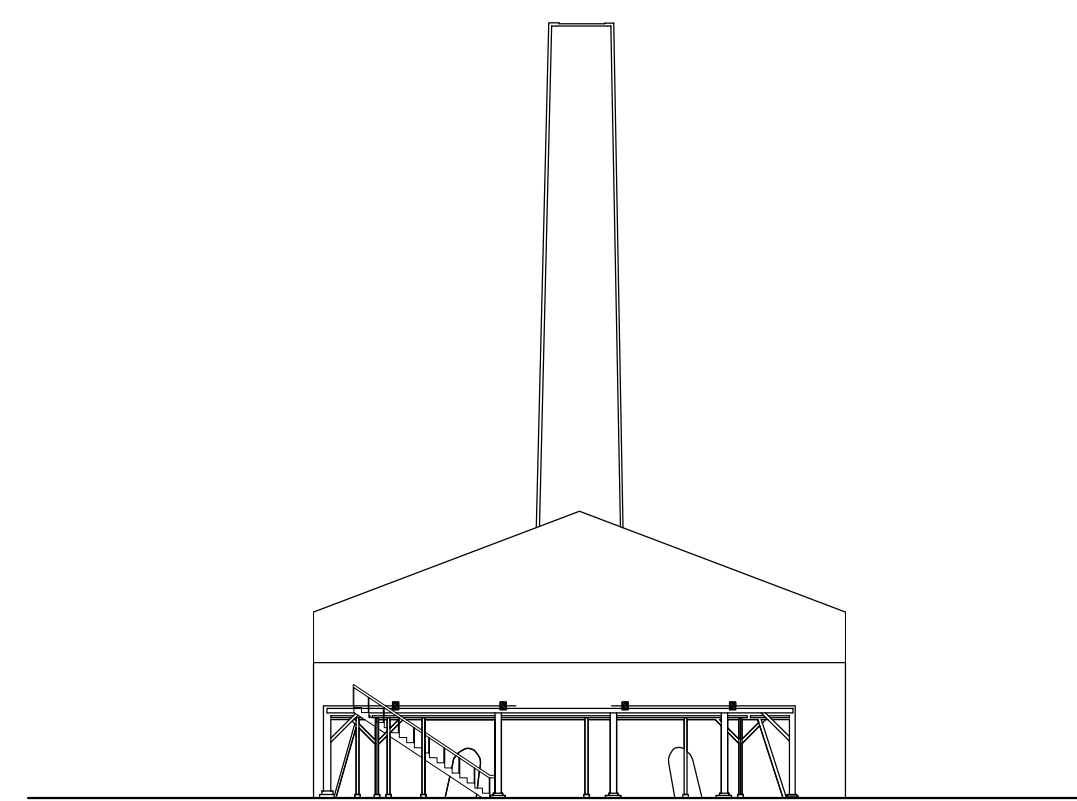
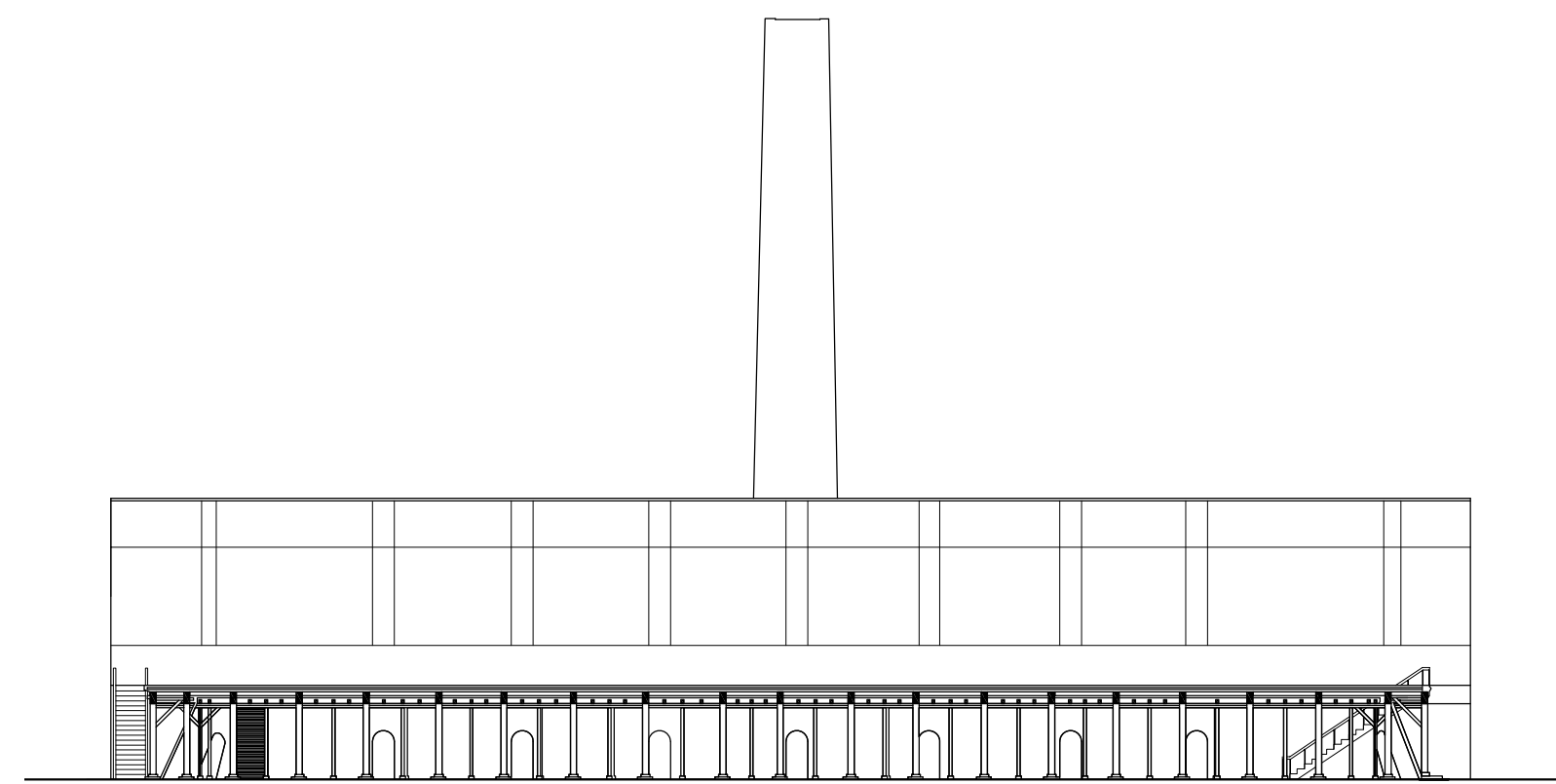
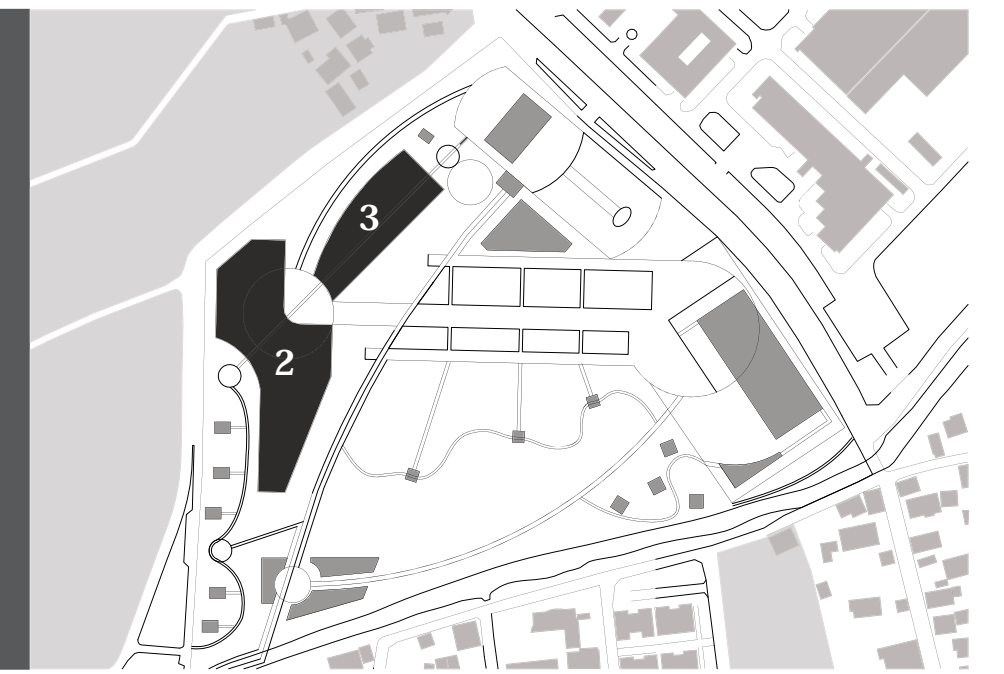


DIAGRAM & PLAN_Training institute

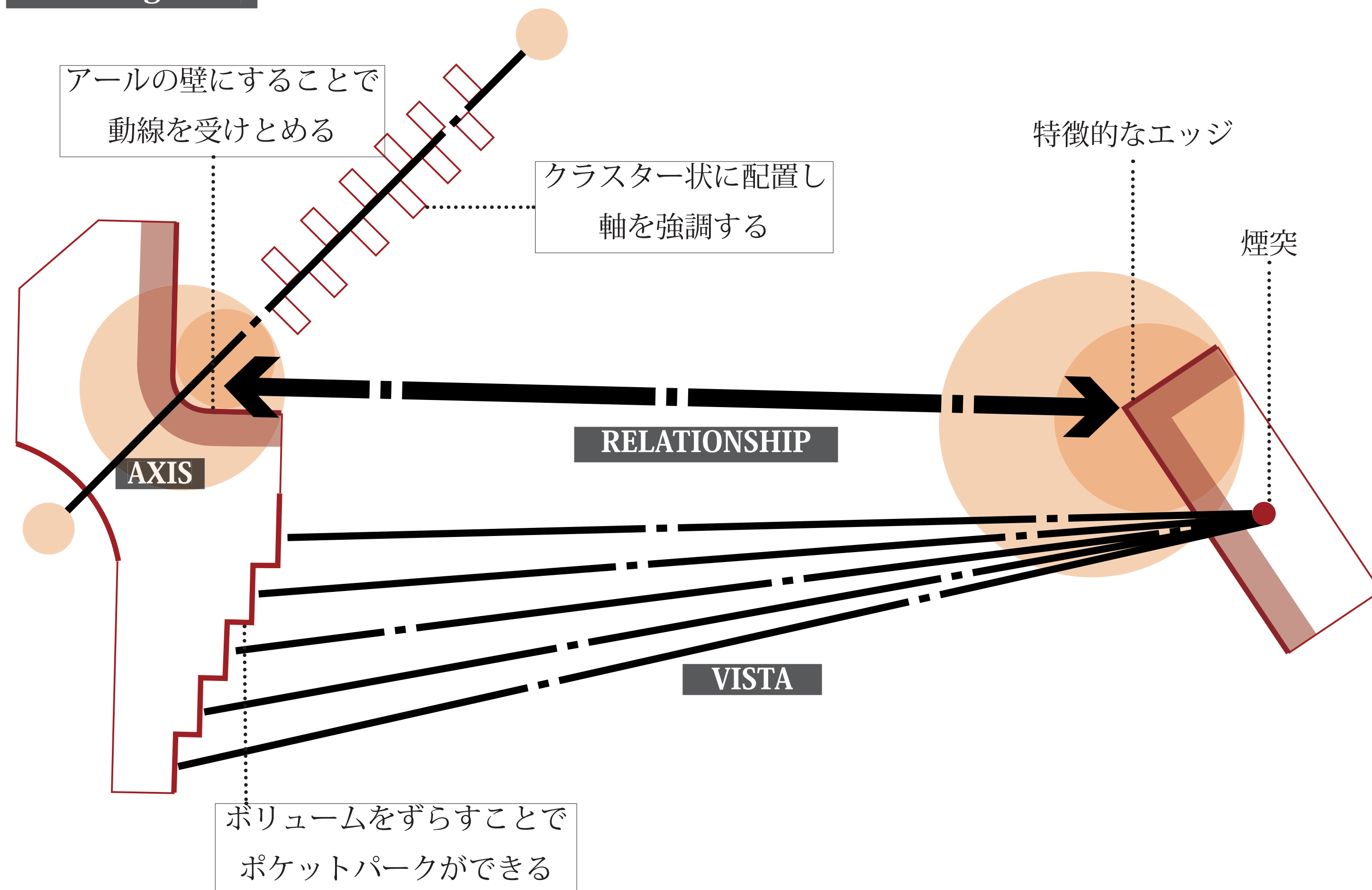
この研修棟では、食に関するセミナーが開かれるほかに、企業の団体利用や地域住民の集会所としても活用できる。

主役であるレストランとの関係がひとつづきになるよう対極に配置し、さらに研修室からの視線がレストランへ向けられるよう計画した。

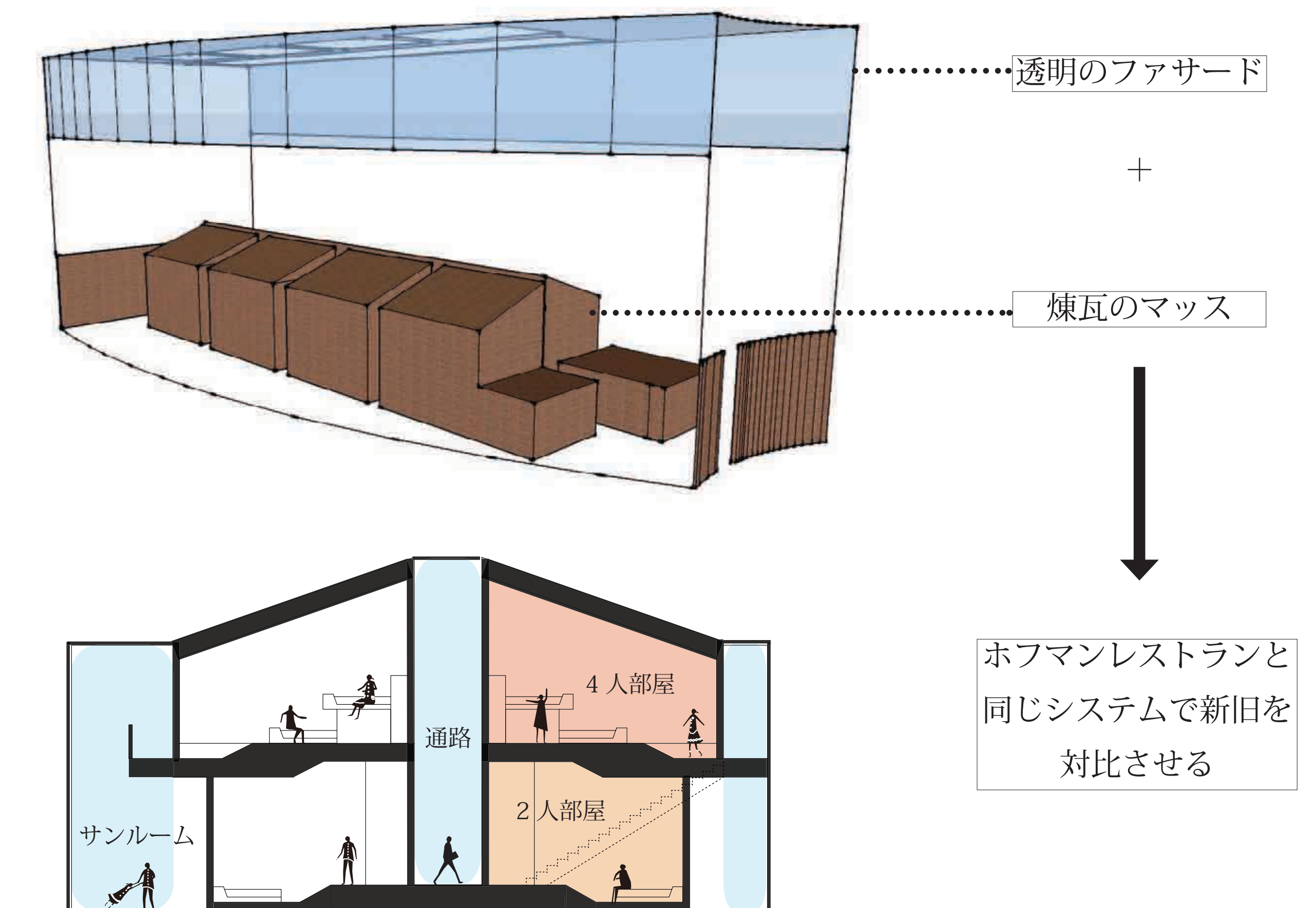
隣接する宿泊棟は研修棟からのアクセスを考慮し、広場を介して研修棟と一体となる。また外壁をガラスとし外部との境界を透明化することで、緑豊かな外部と内部がつながる。

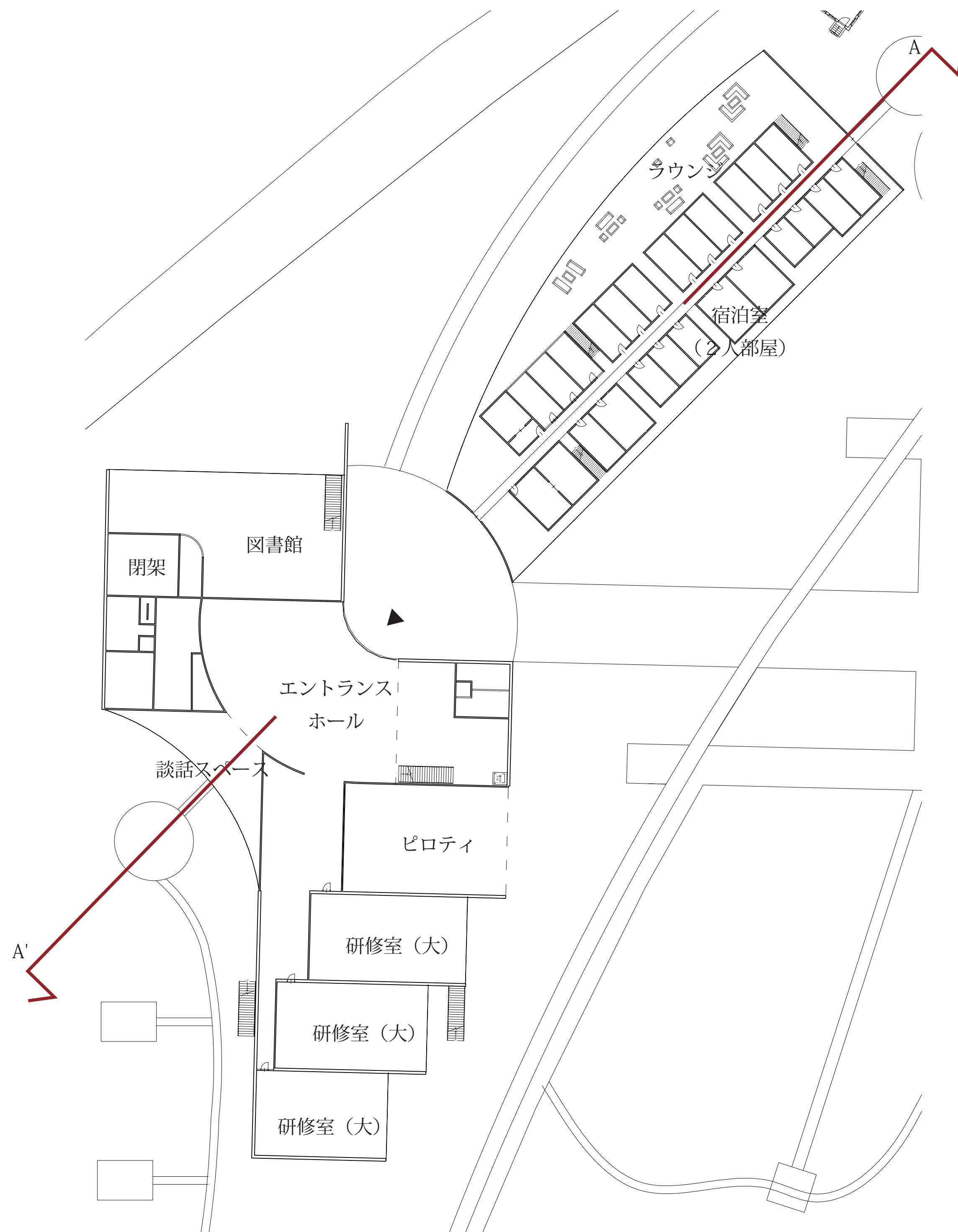


Form diagram 2

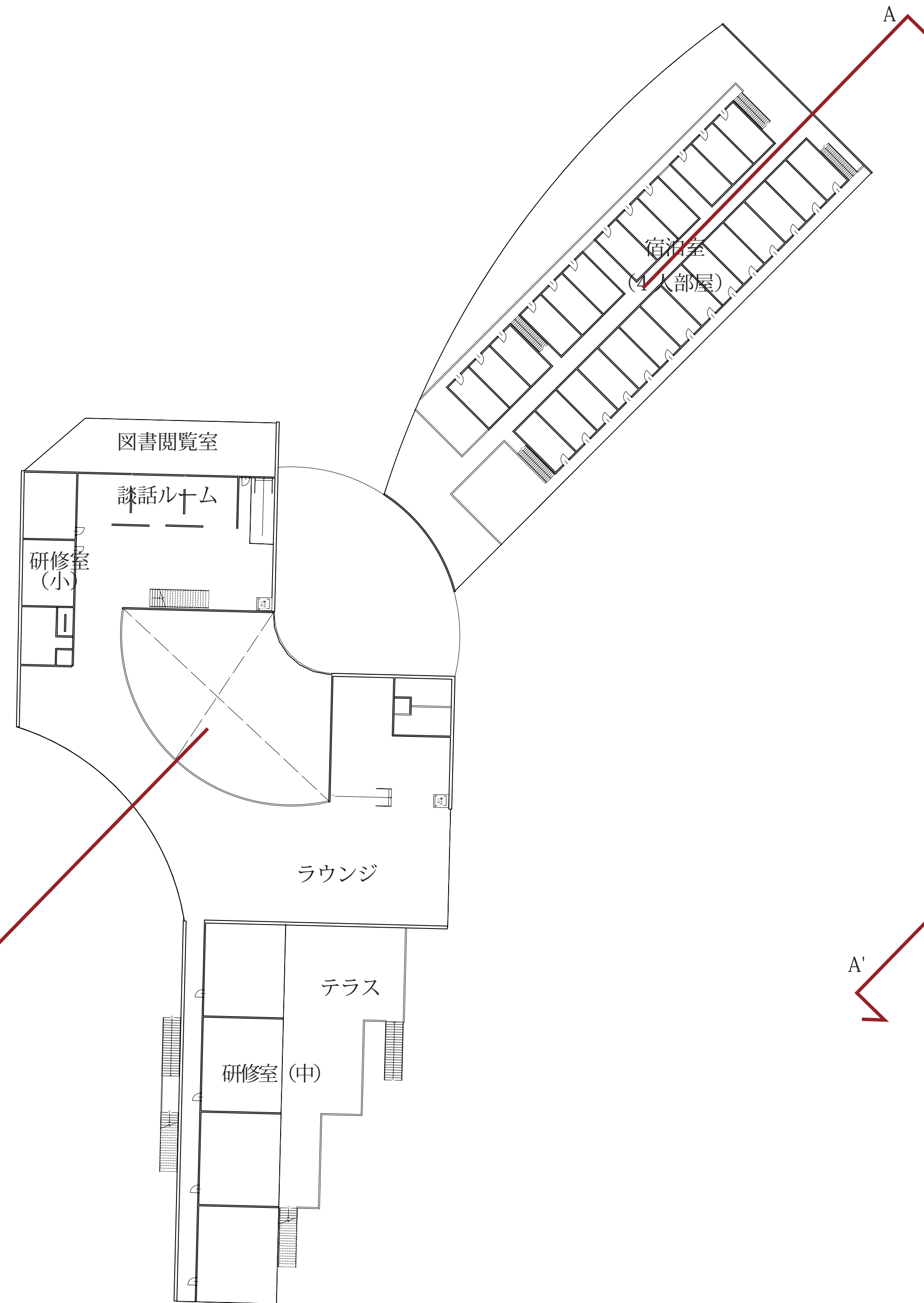


Form diagram 3

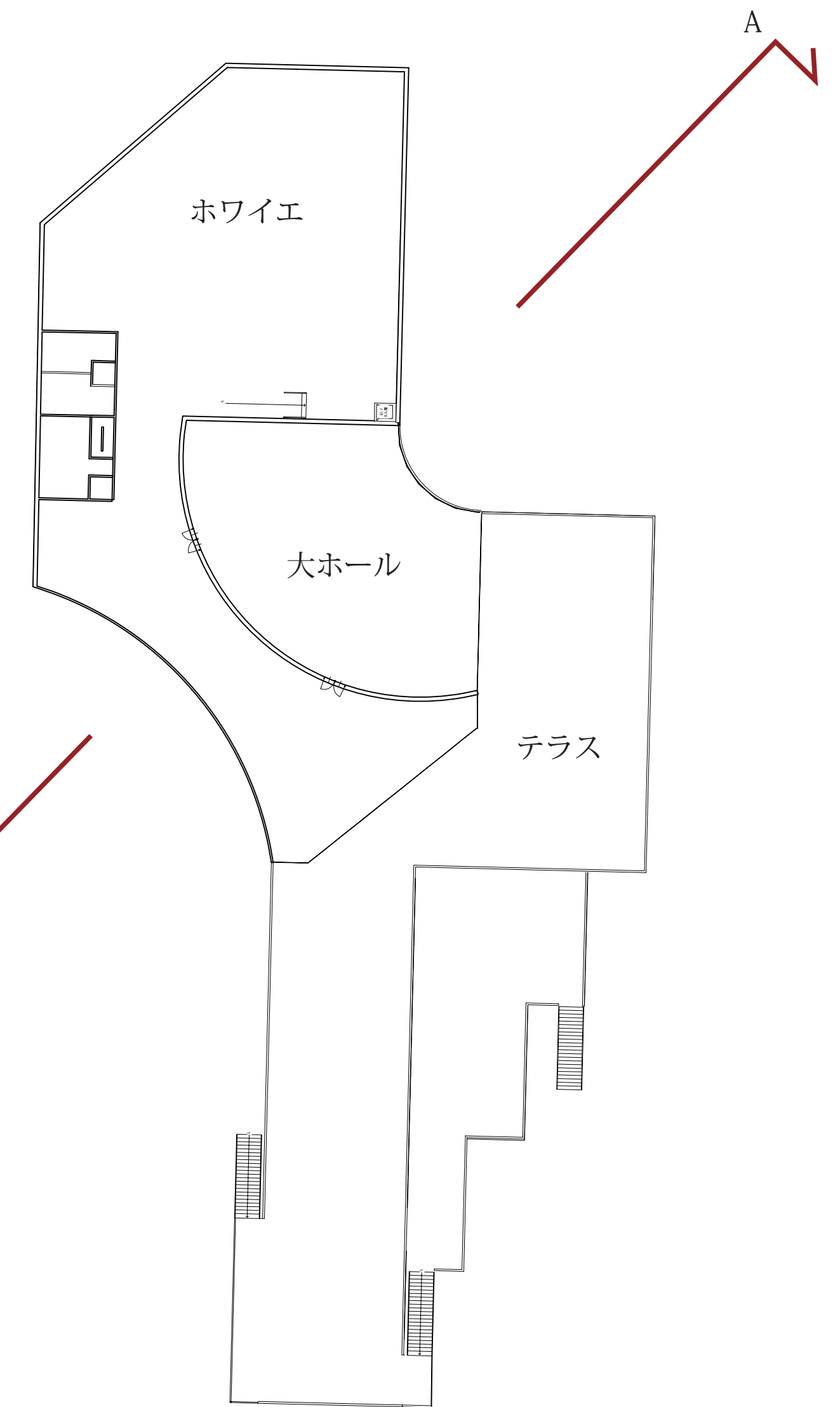




1F

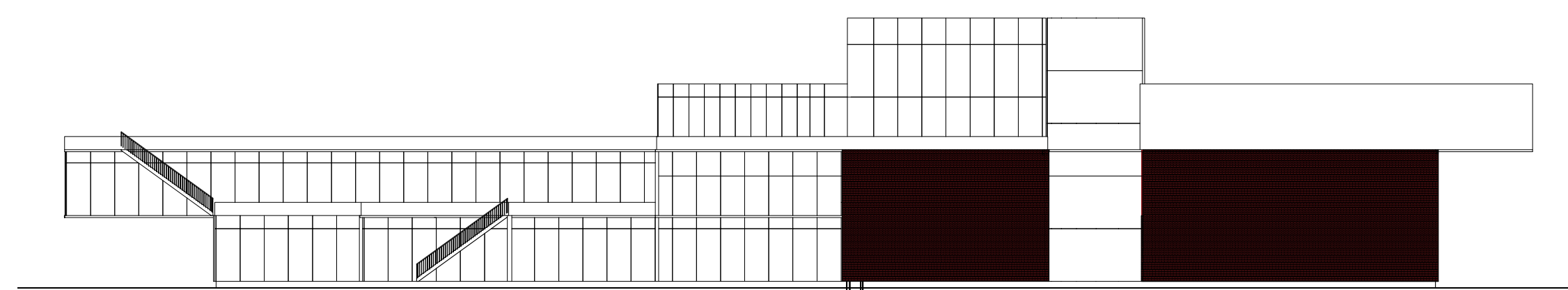
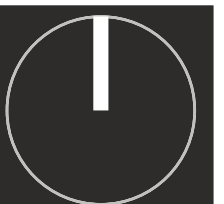


2F

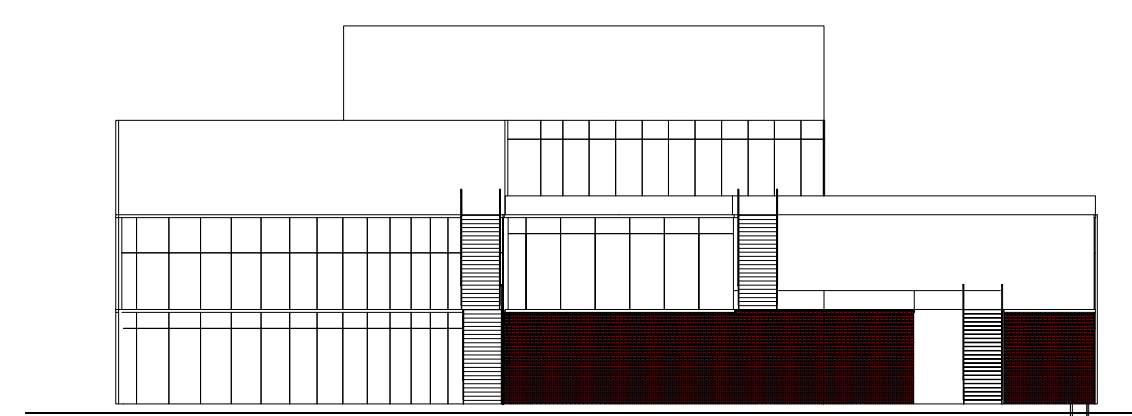


3F

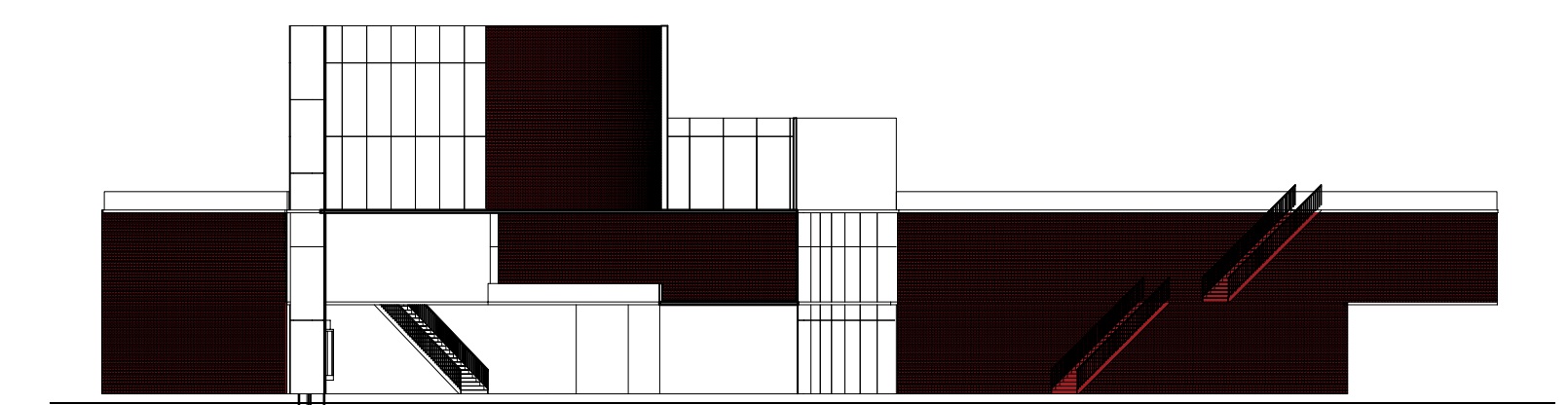
Plan S=1/400



East Elevation S=1/400



South Elevation S=1/400



A-A' Section S=1/400

